

三木山森林公園 検索
カラー写真入りの「みどころ情報」をHPにて掲載しています

ネズミサシ④、ガンクビソウ⑧、アカメガシワ⑨、は園内各所で見られます。

ツリガネニンジンが咲いています⑦

スイレンの除去作業を行っています①

ハゴロモモが増殖しています②



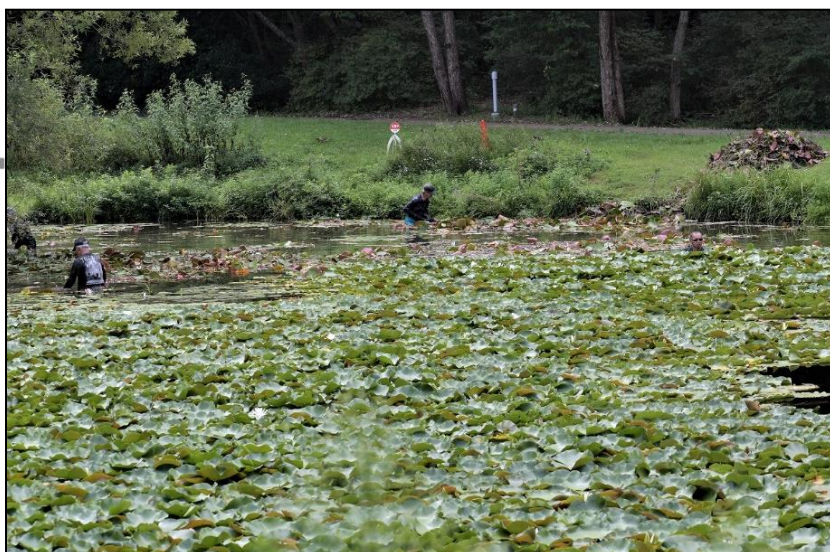
スミレホコリタケが見られます③

アベマキの若いドングリが見られます⑩

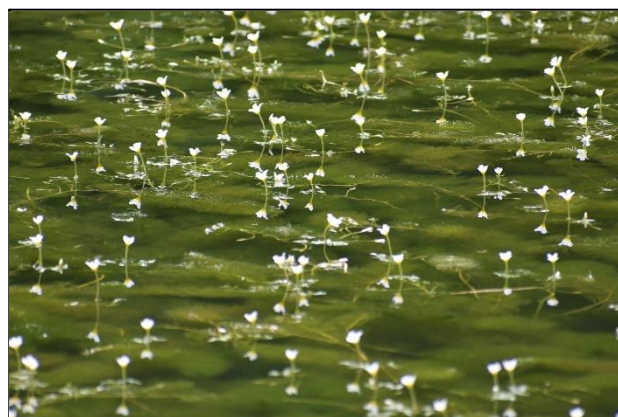
ヤブランが見られます⑪

ヤマボウシの若い実が見られます⑤

モミジバフウの若い実が見られます⑥



スイレン（スイレン科）の除去作業（下池）①
スイレンは花が美しいのですが、繁殖力が旺盛で、放っておくと水面を埋め尽くしてしまい他の生物に悪影響を与えてしまいます。このため、上池、下池でのスイレンの除去作業を行っています。



ハゴロモモ（ハゴロモモ科）②
金魚藻と総称される水草の1つですが、数年前から上池で異常に増殖してします。除去しようにもすぐに干切れてしまい除去できません。環境省の「生態系被害防止外来種リスト」のうち「重点対策外来種」とされています。



スミレホコリタケ（ホコリタケ科）③

ボールのようなので、すぐに蹴飛ばしてしまいます。成熟すると色が濃くなり、紫色の胞子が飛び始めます。



ネズミサシの若い球果（ヒノキ科）④

今は緑色ですが、球果は熟すと黒くなります。洋酒のジンの香りの元は近縁のセイヨウネズの球果（ジュニパーベリー（Juniper berry））です。写真の球果をつぶして匂ってみると、ジンの香り？がします。（球果ができるのは、雌木だけです。）



シオカラトンボの雌（トンボ科）
雄は水色ですが、雌は黄色いためムギワラトンボと呼ばれることもあります。



チョウトンボ（トンボ科）
蝶の様にヒラヒラ飛ぶため、チョウトンボと呼ばれます。



ヤマボウシの若い実（ミズキ科）⑤
緑色から赤色に熟しつつあります。



モミジバフウの若い実（フウ科）⑥

実が熟し種子が出たあとの実は形が面白いことから、工作の材料として人気があります。



ツリガネニンジン（キキョウ科）⑦

花の形からツリガネ、根の形がチョウセンニンジンに似ていることからツリガネニンジンと呼ばれています。



ガンクビソウ（キク科）⑧

花の形が煙管の雁首に似ていることからこう呼ばれます。



アカメガシワの種子（トウダイグサ科）⑨

雌雄異株のため、種子ができるのは雌木だけです。



アベマキの若い実（ブナ科）⑩

2年かけてドングリができます。写真は急速に成長している2年目のドングリです。



ヤマガラ（シジュウカラ科）
野性的な表情(?)をしたヤマガラです。



ヤブランの蕾（キジカクシ科）⑪

もうすぐ、淡紫色の小さな花が密に咲きます。和名にランとありますが、ランの仲間ではありません。